

フランス近代法研究班 研究報告

貴田 晃

「フランス革命と国有財産、亡命貴族」と題して、以下のように報告する予定で、それなりに、準備をいたしました。

- 1) 「三部会」招集される、それぞれの思いは？
 1. ポワチエへ向かう7人の貴族、その中の二人の対話
 2. オータンの司教(タレイラン)
 3. ラ・ロシェフコー・リアンクール公爵
- 2) 「サニャック氏」の現況とタレイラン登場
- 3) 王権と教会
 1. シャルル・マルテル
 2. 三部会創設とレジスト、パドヴァのマルシリオ
 3. シャルル7世とプラグマチック・サンクション
 4. ボローニュの政教条約
- 4) 修道問題、特に18世紀
 1. 修道会の役割
 2. 二つの事件、ダミアン、ラバレット、イエズス会追放
 3. コミッション・デ・レギュリエ(1766年～80年)
 4. 「コマンド」について
- 5) 1) の人々のその後、回想「激動の30年」

しかし、いってみれば報告の糸口である1)の話に手間取り、と申しますか、余計なことを付け加えてお話ししたものですから、これだけで1時間以上も費やしてしまいました。この先を、お聞きいただくのも苦痛かと思い、打ち切らせていただきました。お詫びして次回、2)からご報告いたします。今回は、1)のみの報告といたします。

1) - 1. 「ポワチエへ向かう7人の貴族」

三部会召集の際、それぞれ立場の異なる3人の人物の中で、まずポワトゥ地方の貧乏貴族の目を通して、革命直前の世相と言ったものをとりあげてみた。彼らの収入、家族の状況、とくに農民、村の司祭と比較して、年収1000リーブルで暮らす彼らの姿を描いてみた。比較の物差しとして、当時の他の職業の収入、人口に占める特権階級の数なども挙げた。

彼らのことは、「百姓姿で、宿泊費もなく、それを前借し、徒歩でポワチエに向かう7人の貴族がいた」と、文書に残されている。

1) - 2 オータンの司教(タレイラン)

タレイランを登場人物に選んだのは、本報告のテーマ「教会財産」の世俗化のいわば張本人であり、サニャック氏の原注によればこの件に関わる「タレイランの役割はまことに大であった」のがその理由である。

宮廷の陰謀や秘密外交の時代であった18世紀半ばに生まれ、しかも、幼少時の災難のため僧侶に身を置かざるをえなかった。野心にあふれたこの人物が自らの才能を生かすためには、「全国三部会」の開催はまさに好機到来と思われたであろう。ピットのように、若くして世に出ることができ、イギリス人をモデルにして、議会制のもと、ブルジョワジーの発言力を認め、その財力を引き寄せねば、この国の発展はないと、彼は踏んでいたと思われる。また、ルイ16世に、この難局を乗り切る力量があるとは思えない。ともあれ、革命前からすでに相場師として名が売れ、賭博と株取引を生涯やり続けた男、「暗黒事件」でバルザックによって、フーシェ、マセナと共に三傑物の一人として、外務大臣官邸で陰謀を企むまでには、まだ10年ある。

1) - 3 ラ・ロシュフコー・リアンクール公爵

89年7月14日に半ば伝説だとされているものの、「陛下、革命でございます」とルイ16世に言った人物。

大貴族の代表として、重農主義に基づいた、土地経営を実践している。そもそも、全国三部会を招集する以外の解決策を国王が見出せなかったことは、王権の統治能力が如何に

地に落ちたかを如実に示すもので、これは真にまずいことだとする。とはいえ、大貴族の立場は微妙である。王権に奪われた封建領主としての権利を取り戻そうと事あるごとに、王権を脅かしてきたのだから。リアンクール公爵の先祖のフランソワ 6 世は「マキシム」で名をなしたとはいえ、フロンドの乱では、あわや、失明という重傷を負っても、サンタントワヌ街で、国王軍に弓を引いたのだから。

「伯母上、いやしくも国王ですよ。私は国王にお仕えする身分です……」

「陛下にお仕えしている身分だから、率直にものが言えないとでもおっしゃるの。あなただって、ブルボン家と同じくらい立派な家柄の出ではありませんか。もし、ギューズ一家がもう少ししっかり覚悟を決めていたら、いまごろは陛下だって、ただのつまらぬ男にすぎないでしょう。」

とはいえ、リアンクール公爵は博愛家として、名をなしているわけですから、これほど過激な考えは持っていなかったと私は考えたいのです。

「貴族階級が自己の優越を保持する条件、すなわち財産と権力と栄光をその手に握り、優れた知能に恵まれ、さわやかな弁舌と行動力をその身につけていること、この力が一つでも欠ければ、あらゆる特権は消滅し、たちまち民衆に打ち倒される。」しかし、この条件を満たす者がこの国にはたして何人いるか。

「2500 万人の内、500 万人の貧窮民を抱えるこの国で、良心に恥じることなく 70 万人の人間に同じ特権を与えるといのは、奇怪な制度である。」というシャンフォールの言葉は的を射ている。